推　奨　品　種

夏秋どりさやえんどう品種「あずみ野30日絹莢ＰＭＲ」

（園試高冷地開発センター）

１．来歴

昭和60年、（株）サカタのタネより発表された。

２．特性の概要

１）開花始めは「三十日絹莢」より１～２日早く、収穫始めは同じ～１日早い。有効側枝数は「三十日絹莢」より少ないが、双莢率はやや高い。

２）Ａ品莢数の割合が高く、Ｂ品莢数および販売不能莢数が「三十日絹莢」より少ない。

３）莢幅に対する莢長の割合が「三十日絹莢」よりやや長く、形状に優れる。

４）うどんこ病に対して「三十日絹莢」より耐病性が強く、発病程度が軽い。

３．推奨品種に採用する理由

本県の夏秋どりさやえんどうは、夏期の比較的冷涼な気象を生かした産地として定着しているが、収穫作業や生育初期からのうどんこ病防除に多くの労力がかかることに加えて、栽培者の高齢化等により作付面積は横ばい状態にある。

「あずみ野30日絹莢ＰＭＲ」は、従来の夏秋どり品種「三十日絹莢」よりＡ品莢数率が高く、外観的な形状に優れており、うどんこ病にも強い。

４．適応地域

１）適応地域　県下全域

２）適応作型　夏秋どり

５．栽培上の留意点

１）有効側枝の発生が少ないので、「三十日絹莢」よりやや密植とする。

２）うどんこ病に対して、完全な抵抗性ではないので、薬剤防除は従前通り行う。

３）栽培法は栽培技術指針に準じる。

６．試験成績概要

表１　年度別のａ当り収量（平成３～５年）

品種	年度	A品 莢数 (千枚)	A品 莢重 (kg)	B品 莢数 (千枚)	出荷不能莢数 (千枚)	収穫莢数合計 (千枚)	販売可能[1]莢数率 (%)	A品莢数率 (%)
あずみ野30日	3	26.6	48.2	2.5	5.1	34.2	85	78
	4	38.5	53.1	6.3	1.3	46.1	97	84
	5	25.2	40.5	5.0	2.0	32.2	94	78
	平均	30.1	47.3	4.6	2.8	37.5	93	80
三十日絹莢	3	28.2	50.4	4.6	6.6	39.4	83	72
	4	39.1	52.3	13.6	2.5	55.2	95	71
	5	24.2	33.1	10.5	4.1	38.8	89	62
	平均	30.5	45.3	9.6	4.4	44.5	90	69

販売可能莢数率[1]：（Ａ＋Ｂ品莢数／収穫莢数合計）×１００

表２　うどんこ病の発生程度（平成５年）

品種	株間 (cm)	8月20日調査 1～10節 発病度[2]	8月20日調査 1～10節 発病葉率(%)	8月20日調査 11～20節 発病度[2]	8月20日調査 11～20節 発病葉率(%)	9月25日調査 21節以上 発病度[2]	9月25日調査 21節以上 発病葉率(%)
あずみ野30日	14	６３	１００	３３	５８	５１	７８
	10	７５	１００	３８	６６	５４	８０
	7	７１	１００	３１	５７	４９	８０
三十日絹莢	14	９４	１００	４６	７１	６６	８１
	10	９７	１００	５０	７３	７２	８６
	7	８９	１００	３９	６５	７０	８３

発病度[2]：$\dfrac{\Sigma\text{（程度別発病葉数×指数）}}{\text{調査葉数×4}} \times 100$